トピックス

鹿児島県本土に侵入したアシビロヘリカメムシの発生状況

鹿児島県農業開発総合センター　松比良（まつひら）　邦彦（くにひこ）

はじめに

アシビロヘリカメムシ *Leptoglossus gonagra*（図-1）は，カメムシ目ヘリカメムシ科に属し，成虫の体長が17～25 mmと大型な種である。体色が黒く，下面には多数の橙色斑がある。前胸背は中央前方に三日月型をした橙色の帯があり，側角は鋭くとがる。後脚は長大で脛節が葉状に広がっている。本種は，ニガウリ，キュウリ，カボチャ，オキナワスズメウリ等のウリ科植物上で繁殖し，グアバ，パッションフルーツ，カンキツ類での加害記録もある。加害を受けたこれら果実は，果実全体や吸汁部位が硬化して商品性を失う。本種は奄美大島以南の南西諸島に分布し，国外では東南アジア，オセアニア，アフリカ，ミクロネシア等に分布する亜熱帯～熱帯性の害虫（安永ら，1993）であったが，近年，本土での散発的な発生が見られるようになった。鹿児島県指宿市では，1983年（鹿児島県立博物館，1994），2000年（鹿児島県病害虫防除所，2016）および2014年（前田，2015）に発生の記録があり，長崎県小浜町（現，雲仙市，長崎県病害虫防除所，2004）では，2004年に記録されている。発生が見られたこれらの地域でのその後の定着の有無については不明である。

I　2016年に見られた同時多発的な発生

2016年の鹿児島県本土におけるアシビロヘリカメムシの発生は，露地栽培のニガウリで7市町と広範囲に発生し，発生地のほとんどが経済栽培ではなく家庭菜園であった（鹿児島県病害虫防除所，2016）。同年は，本県以外にも和歌山県（和歌山県農作物病害虫防除所，2016），徳島県（徳島県病害虫防除所，2016），高知県（高知県病害虫防除所，2016）から特殊報が発表されるなど発生は広域に見られ，同時多発的な様相を示した。また，インターネット上のブログでは，長崎県対馬市や神奈川県においても発生した様子が認められた。そこで，本種の発生が広範囲に認められた2016年の鹿児島県本土における冬季の幼虫の生存推移と2017年の発生状況から，アシビロヘリカメムシの定着可否について検討した。

II　冬季の野外条件下における生存推移

2016年12月～2017年5月にかけて，垂水市浜平のニガウリ残渣上に発生していた個体群を対象に冬季の生存推移を観察した。なお，調査はほぼ1週間間隔で行い，本虫の低温耐性を検討するため，ニガウリの残渣が枯死した12月24日以降は，餌不足に陥らないようキュウリやハヤトウリ等を調査時ごとに給餌した。調査地の気温はデータロガー（ハイグロクロン，KNラボラトリーズ

図-1　アシビロヘリカメムシ（左から，卵塊，若齢幼虫，中老齢幼虫，成虫）

Occurrence Status of Leaf-Footed Plant Bug, *Leptoglossus gonagra* (FABRICIUS) (Heteroptera : Coreidae), Invaded the Mainland of Kagoshima Prefecture.　By Kunihiko MATSUHIRA

（キーワード：ニガウリ，越冬，定着，低温耐性，飛翔能力）

植物防疫